

海外留学体験記～Vol.1～

国際交流委員会ならびに国際交流室では、本年4月、新入生に対し「海外留学アンケート」を実施し、日本人学生の海外留学に対する希望を調査しました。結果、多くの学生が「米国で英語を学ぶ」ことを希望していることがわかりました。

そこで、留学を希望する学生に対し、海外留学を経験した在学生・卒業生・教職員から、留学のすばらしさや国際的視野が広がることなどの魅力を伝え、グローバル人材としての活躍を期待すべく「海外留学体験記」としてインタビューを実施します。

記念すべき第1回目となる今回は、昨年度、米国オレゴン州にある「ポートランド州立大学」に約9カ月間留学していた、ライフマネジメント学科4年 杉田 海成さんの体験記をお伝えします。同大学は、本学と提携を結んでおり、留学先で修得した単位が本学の卒業要件単位として認定されます。

それでは、以下インタビューをご覧ください。

インタビュアー：国際交流センター長

小島 有利子（以下 小）

回 答 者：杉田 海成さん（以下 杉）

小：杉田さんは、本学でどんな勉強をしていますか。

杉：スポーツの実技・心理学・歴史など、スポーツに関連する内容を学んでいます。

小：昨年度は何月から留学しましたか。

杉：2017年4月から12月までの9カ月間です。

小：留学先での様子や楽しかったこと、びっくりしたことなどを教えてください。

杉：毎日が新鮮で、留学初日から日本に帰国するその日まで、刺激的で充実した9カ月間でした。日本とアメリカは人種も違うので、日々学ぶことが多かったです。

また、留学中の6月に21歳を迎えたので、飲酒ができるようになりました（アルコールの年齢制限は州によって異なる）。ポートランドはビールが有名なので、ビールのおいしさに気付きました（笑）。



小：留学先での勉強の様子を聞かせてください。

杉：まず初日にプレースメントテストを受け、クラスが【0】から【5】（最上）レベルに割り振られます。私は、日本の中学から高校基礎レベルである【2】レベルからのスタートとなりました。

クラスでの勉強と、連日たくさんの宿題をこなしたことにより、最終的には【4】レベルの卒業試験をパスして【5】レベルに入れるまでになりました。

授業内容は、スピーキング、リスニング、文法、ライティング、リーディングなどで、1クラス15人程度で、2レベルではクラスに3人程度日本人がいましたが、4レベルでは、日本人も少ないクラスとなりました。

スピーキングとリスニングのクラスでは、パワーポイントで日本の文化を紹介しました。間違えても何でも、とにかく「英語」で伝えなければなりません。

また、夏学期には「アカデミックボキャブラリー」というハイレベルな単語を学ぶクラスを履修し、秋学期には、「ドラマ」という、ジェスチャーを駆使し、いかにわかりやすく相手に伝えるかを学ぶクラスや正確な発音を学ぶ「プロナンスエーション」というクラスも履修しました。

小：授業の中で大変だったことはありましたか？

杉：他国の学生たちは、回答に際し、違和感なく挙手します。私はシャイではない方ですが、周りのみんなに圧倒され、そこから変えないと・・・と感じました。日本人はほとんどがそうでしたが、今となれば私も積極的に挙手できます。日本人特有の「殻を破る」ことが必要です！

小：帰国してから変わったことはどんなことでしょうか。

杉：もっと英語が好きになり、英語を活用できる会社に内定を頂きました。また、周りの人と積極的にコミュニケーションを取ろうと心掛けて生活しています。

小：確かに、留学の経験を生かして、物怖じせず、人の目を見て話すことができているですね。感心します。

小：ポートランドの街はいかがでしたか。

杉：帰国後、もっと好きになりました。連日雨が降り続く雨季も経験しましたが、夏季のカラっとした気候は日本にはない爽快感で、またその時期に訪問したいです。街もコンパクトで、緑が多い環境のため、気分よく徒歩で散策もできましたし、路面電車を使えばどこへでも行けます。



小：ポートランド州立大学はどうでしたか。

杉：「一つの街」かのように広大で、日本のキャンパスとは全く違う環境でした。ロッククライミングやビリヤード、プール、トレーニングジムなどの施設が充実していて、学生IDを持っていれば使用することが可能です。

普段のランチは「フードコート」と呼ばれる世界各国の屋台が10台ほど軒を連ね、その光景はポートランドではポピュラーだそうです。

また、プログラムの中で、海や近隣のアウトレット、車で約3時間掛かるシアトルなどに無料チャーターバスで連れ出してくれました。シアトルにある STARBUCKS COFFEE1号店やシアトルマリナーズのスタジアムにも行きました。

小：ホストファミリーについて教えてください。

杉：アメリカ国籍のホンジュラス人で、スペイン語と英語が飛び交っていました。クリスマスパーティなども開催してくれて、プレゼント交換会があることを知らず、恥をかいてしまいました（汗）。

小：現地で車の運転はされましたか？

杉：留学前に国際免許を取得し、現地でレンタカーを借りました。春のターム終了後、約1,000キロあるグランドキャニオンまで友人とドライブしました。一番行きたかった場所だったので、感動もひとしおでした。また、サンフランシスコへも行くなど、人生観が変わり、いい経験になりました。

小：これからの展望・目標をお聞かせください。

杉：内定を頂いた商社では、海外とのやり取りを行う部署に配属される予定ですので、今回の経験を生かして、海外を飛び回るような活躍をしたいです。

小：在学生に対して、留学するメリットなど、メッセージをいただけますか？

杉：私はライフマネジメント学科に入学し、スポーツトレーナーを目指していましたが、毎日の授業、部活動、アルバイトの同じルーティンに、「このまま卒業を迎えているのか」という疑問を抱きました。このルーティンを打開するために「留学」という選択肢を選びました。

「自分を変えたい」と思っている学生、現在の生活に刺激がない学生はぜひ一歩踏み出



してみたいです。

目標がなかった私でも、今回留学をしたことで明確な目標ができました。

もしも前述のルーティンを打開しない自分であったならば、ここまでの成長と自信は持っていません。選択は間違っていなかったと胸を張って言えます。

インタビュー後記

杉田さんが留学という人生の転機において、チャンスを自分のものにしていく様子に心を動かされ、ワクワクしながらお話を伺いました。杉田さんの表情は常に明るく、それでいて落ち着いていて、留学を経て、自分なりの人生を着実に歩みはじめていることが伝わり、とても嬉しく思いました。これからの杉田さんの未来を心から応援したいと思います。

国際交流センター長

小島 有利子

～留学先での思い出～



